※事務所、休憩所に掲示の事

令和４年度（第68期）安全衛生目標

（目標設定の趣旨）
令和2年6月25日に発生した事故より2年経過、その間休業4日以上の労働災害は発生していない。但しこの1年間報告されたヒヤリハットには、災害・事故に発展する恐れのある事例が散見されていた。職長からの危険個所、不安全行動の報告は災害を防止するための貴重な情報であり、危険を察知する意識の向上と作業員への指導力向上の為、能力向上教育は重要と考える。
　第68期（R4.7.1～R5.6.30)においては、更に1年気持ちを新たに休業災害ゼロ継続「365日」を目標に、作業所職員、作業員だけでなく大河原建設本社と協力業者事業主が一丸となり、各自が責任を持ち安全衛生管理の職務を遂行する。「安全は全てに優先する」を基本として日々作業環境の整備と、安全意識の向上を務める為　以下の5項目を目標とする。

安全衛生目標

〈１〉	作業所における職長・安全衛生責任者は5年以内の能力向上教育受講者とする。
（理由）	作業所における技術の高度化、機械化が進み、職長・安全衛生責任者（以下職長等）の役割が重要化している。そのため職務を的確に遂行するために指導が必要と考える。職長等が主となった安全施工サイクルが運用されることで事故の軽減につながる。作業所では職長の受講確認を徹底する。
〈２〉	既存設備撤去による事故を０件とする。
（理由）	解体工事、改修工事の受注が増加しており、既存設備の破損事故が増加傾向にある。電気設備、ガス設備を破損することは、作業員の感電事故、ガス爆発事故、等に直結する事案となるため事前調査の徹底を義務付ける。
〈３〉	作業所において「３・３・３運動」「グーパー運動」ポスター掲示率100％とする。
（理由）	重機災害、揚重機災害防止の為すでに取り組んでいる作業所はあるが、実施していない作業所もあり作業員への周知徹底のため、社内標準としてルール化し災害の撲滅を図る。
〈４〉	足場からの墜落・転落災害防止のため足場組立、変更後及び作業開始前の点検を100%実施する。
（理由）	安全パトロール及びヒヤリハットにおいて、足場の不備の報告が数多くあり、このままでは墜落転落災害発生のおそれがある。足場の点検により不備を減らし、災害発生の撲滅を図る。
〈５〉	作業所の安全衛生目標の達成状況、方策をパトロールにて確認する。
（理由）	作業所での安全衛生目標は、ただ掲げるだけでなく目標達成の為何を行ったが重要である。その認識を現場職員、作業員に水平展開するため、店社パトロールにて実施状況を確認する。

2022年　7年　1日

大 河 原 建 設 株 式 会 社

代表取締役社長　　朝　倉　純　夫

◆安全衛生目標設定書　　安全衛生目標設定書　13-3-01-01

※事務所、休憩所に掲示の事

令和４年度（第68期）安全衛生目標

（目標設定の趣旨）
令和2年6月25日に発生した事故より2年経過、その間休業4日以上の労働災害は発生していない。但しこの1年間報告されたヒヤリハットには、災害・事故に発展する恐れのある事例が散見されていた。職長からの危険個所、不安全行動の報告は災害を防止するための貴重な情報であり、危険を察知する意識の向上と作業員への指導力向上の為、能力向上教育は重要と考える。
　第68期（R4.7.1～R5.6.30)においては、更に1年気持ちを新たに休業災害ゼロ継続「365日」を目標に、作業所職員、作業員だけでなく大河原建設本社と協力業者事業主が一丸となり、各自が責任を持ち安全衛生管理の職務を遂行する。「安全は全てに優先する」を基本として日々作業環境の整備と、安全意識の向上を務める為　以下の5項目を目標とする。

安全衛生目標

〈１〉	作業所における職長・安全衛生責任者は5年以内の能力向上教育受講者とする。
（理由）	作業所における技術の高度化、機械化が進み、職長・安全衛生責任者（以下職長等）の役割が重要化している。そのため職務を的確に遂行するために指導が必要と考える。職長等が主となった安全施工サイクルが運用されることで事故の軽減につながる。作業所では職長の受講確認を徹底する。
〈２〉	既存設備撤去による事故を０件とする。
（理由）	解体工事、改修工事の受注が増加しており、既存設備の破損事故が増加傾向にある。電気設備、ガス設備を破損することは、作業員の感電事故、ガス爆発事故、等に直結する事案となるため事前調査の徹底を義務付ける。
〈３〉	作業所において「３・３・３運動」「グーパー運動」ポスター掲示率100％とする。
（理由）	重機災害、揚重機災害防止の為すでに取り組んでいる作業所はあるが、実施していない作業所もあり作業員への周知徹底のため、社内標準としてルール化し災害の撲滅を図る。
〈４〉	足場からの墜落・転落災害防止のため足場組立、変更後及び作業開始前の点検を100%実施する。
（理由）	安全パトロール及びヒヤリハットにおいて、足場の不備の報告が数多くあり、このままでは墜落転落災害発生のおそれがある。足場の点検により不備を減らし、災害発生の撲滅を図る。
〈５〉	作業所の安全衛生目標の達成状況、方策をパトロールにて確認する。
（理由）	作業所での安全衛生目標は、ただ掲げるだけでなく目標達成の為何を行ったが重要である。その認識を現場職員、作業員に水平展開するため、店社パトロールにて実施状況を確認する。

2022年　7年　1日

大 河 原 建 設 株 式 会 社

代表取締役社長　　朝　倉　純　夫